

# もつと家庭の役割について考えよう

誰もが意欲に応じて活躍できる社会を男女共同参画社会といっています。性別にとらわれることなく、お互いが対等なパートナーとして、いきいきと暮らせる社会を目指すためには、行政のみが取り組むものではなく、個人や団体、事業所などの理解と協力が必要です。

平成11年6月23日に男女共同参画社会基本法が制定され、今年で10年目。男女共同参画社会とはどのようなものか、家事や育児は誰の役割なのか、市民のインタビューをとおして考えます。



ゆっパル16号

十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員が作ったコーナーです

イラストレーション 中野渡明美

**男女共同参画社会基本法**  
5つの基本理念を掲げ、国・地方公共団体および国民の役割を示しています。

■基本理念

- (1) 男女の人権の尊重
- (2) 社会における制度又は慣行についての配慮
- (3) 政策等の立案および決定への共同参画
- (4) 家庭生活における活動と他の活動の両立
- (5) 国際的協調

■国・地方公共団体および国民の役割

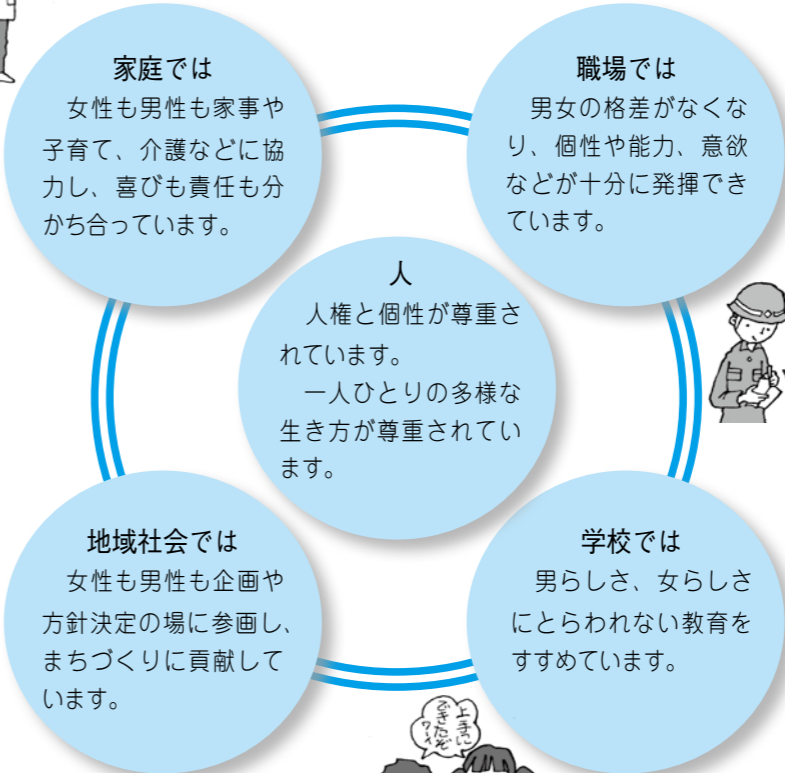
国は、基本理念に基づき、男女共同参画基本計画を策定。積極的改善措置を含む男女共同参画社会づくりのための施策を総合的に策定・実施する。

地方公共団体は、基本理念に基づき、地域の特性を生かした施策を策定、実施する。

国民は、男女共同参画社会づくりに協力する。

## 男女共同参画社会ってどんな社会

〔十和田市男女共同参画社会推進計画〕より



■現状では何が問題なの？  
平成21年度男女共同参画白書によると、女性の政策・方針決定過程への参画を示す※ジェンダー・エンパワメント指数は世界108カ国のうち日本は58位です。これは、諸外国に比べ、女性の健康的な生活、教育、人間らしい生活面では実績を上げていますが、政治や経済活動への女性の参画が進んでいないことを表しています。

※ジェンダー・エンパワメント指数とは、女性が政治および経済活動などの意思決定の場に参画できているかを測るものです。

■わたしたちはどのような協力をすればいいの？

「男らしさ、女らしさ」のような固定観念にとらわれず、誰もが社会の構成員として、家庭や職場、学校、地域社会などのあらゆる場に参画していく必要があります。

## 市民の皆さんに聞きました

毎日の生活に欠かせない家事や育児について、市民の皆さんは、どのように取り組んでいるのでしょうか。

ゆっパル編集委員は、6月28日にイオンスーパーセンター十和田店で買い物回りの市民20組にインタビューしました。若い世代ほど家事や育児は夫婦で分担しているようです。



20代～30代

・家事は夫婦で分担し、子どもは夫が休みのときに見ています。(共稼ぎ)  
・家事や育児は夫婦で協力していないところはなと思います。(共稼ぎ)  
・今は不景気で、共働きでなければ生活できない。結婚しても仕事を続けなければならぬことを理解してほしい。(独身)



40代～50代

・周りでは家事や育児を夫婦で分担しているようですが、我が家は分担していません。(共稼ぎ)  
・家事は夫婦でやるのが理想だが、この年代になると難しい。(共稼ぎ)  
・夫は亭主闖白。若い人は共働きでなければ生活できないと思うので、家事や育児は分担が必要だと思つ。(片稼ぎ)



60代以上

・夫は育児をしなかった。義母と一緒にやっていた。(共稼ぎ)  
・わたしたちのときは、家事は夫婦で分担するということがなかった。子どもたちはうまく分担してやっている。(共稼ぎ)  
・家事や育児は主婦がするものと思つていた。でも自分の子どもたちは分担している。昔と今は違つなと感じる。(片稼ぎ)

■年々増加する共稼ぎ世帯

総務省の調査では、男女共同参画社会基本法が施行された平成11年の専業主婦のいる世帯は912万世帯で、共稼ぎ世帯は929万世帯。平成19年では専業主婦のいる世帯は851万世帯に減少し、共稼ぎ世帯は1013万世帯に増加しており、今後も増えると予想されています。これは、女性の職業の選択の幅が増えたことや夫婦で働かないと生活できないなどの理由が考えられます。

■仕事と生活の調和

近年、共稼ぎ世帯の増加により、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)がキーワードとして取り上げられています。仕事のために生活を犠牲にするのではなく、誰もが家庭責任を果たす、健康維持に努める、自己研鑽するなど仕事と生活のバランスを整えることが必要です。

少子高齢化の中で、安心して子どもを産み育てるためには、男性も自ら積極的に家事や育児に参加することも必要ですが、雇用側からの支援も必要です。

■お互いに認め合える社会を目指して

男女共同参画社会の実現は、21世紀の最重要課題に位置付けられています。

ます。「自分らしさ」という個性が尊重され、男性も女性も意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会が求められています。

これまでは、「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担がありました。しかし、男性も女性も生き方が変わり、「女は家庭」という時代には戻ることはないと言われています。

お互いに喜びも責任も分かち合う社会を目指して、できることから始めてみませんか。

「ゆっパル」とは  
方言で結ぶという意味の「ゆっぱる」と、英語で仲間・友だちという意味の「パル」からできています。一人ひとりの思いが結びついて仲間をつくるという願いが込められています。

十和田市男女共同参画市民情報誌  
ゆっパル編集委員  
天間久美子、洞内貴子、中野渡明美

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしています。

問い合わせ先  
総務課広報男女参画係  
(☎)5111内線155